

はばたき21通信

2003.3

NO. 4

What is gender?

あなたと私のまわりでは？

「はばたき21通信 No.2」でかいま見たノルウェーのジェンダーフリーの世界。この号では、もっと身近に私たちの普通の生活の中に見え隠れするジェンダーの問題を編集委員みんなで話し合い、考えました。

男女平等に関する
台東区民意識調査

平成14年3月

台東区

話し合いは、平成14年3月にまとめられた「男女平等に関する台東区民意識調査」の結果をもとに進めました。この調査は男女平等社会の実現に向けて区民の男女平等意識と実態を把握する目的で実施しているものです。昭和63年から5年ごとに行われ、今回で4回目になります。

この調査結果は男女平等推進プラザや区政情報コーナーなどで閲覧でき、概要版を男女平等推進プラザと区役所6階、人権・男女共同参画推進担当で配布しています。

特集 座談会 あなたと私のまわりでは？

A 今回はぐっと身近な世界が舞台ですね。

B まさしく台東区レベルです。

A そこで非常に興味深い統計報告があるということですが？

B はい、「男女平等に関する台東区民意識調査」といって、ここ、はばたき21の閲覧コーナーなどで、誰でも見られるようになっています。

D うーん。これを見ると家庭生活面では、食事のしたくとか買い物とか男性もずい分関わるようにはなってますね。

【グラフ1～6】

A でもトイレ掃除、お風呂掃除となるとその数はぐっと減っています。

B ……まだちょっと趣味の範囲内でのお手伝い、という感じ

かな。

E 同感です。私のまわりには共働きが多いんですけど、毎日の食事を男性側が作るということはほとんど聞いたことがありませんね。

A 確かに「いつも」となると、68.4%が女性です。

【グラフ1】

E でも疲れて帰るのは一緒じゃないですか。

C ウチも仕事ではないにしても、夫婦一緒に外出から帰ってきた後、すぐ夕食のしたくにとりかからなきゃいけない時に、「何で私だけ休む暇もなく、こうやってご飯を作るわけ？」とよく妻に言われます。(笑)

B そんな時、男性はテレビとか見てること多いですよー。

A まあ、作れないのは仕方がないとしても当たり前のようにしてられるのは…。優しく声をかけてくれるとか、とりあえずそばにいてくれるだけでも。

E あ、それ嬉しいです！



B 男性の約86%の人が「男の子も家事ができるように育てるのがよい」と思ってるんですね。【グラフ7】

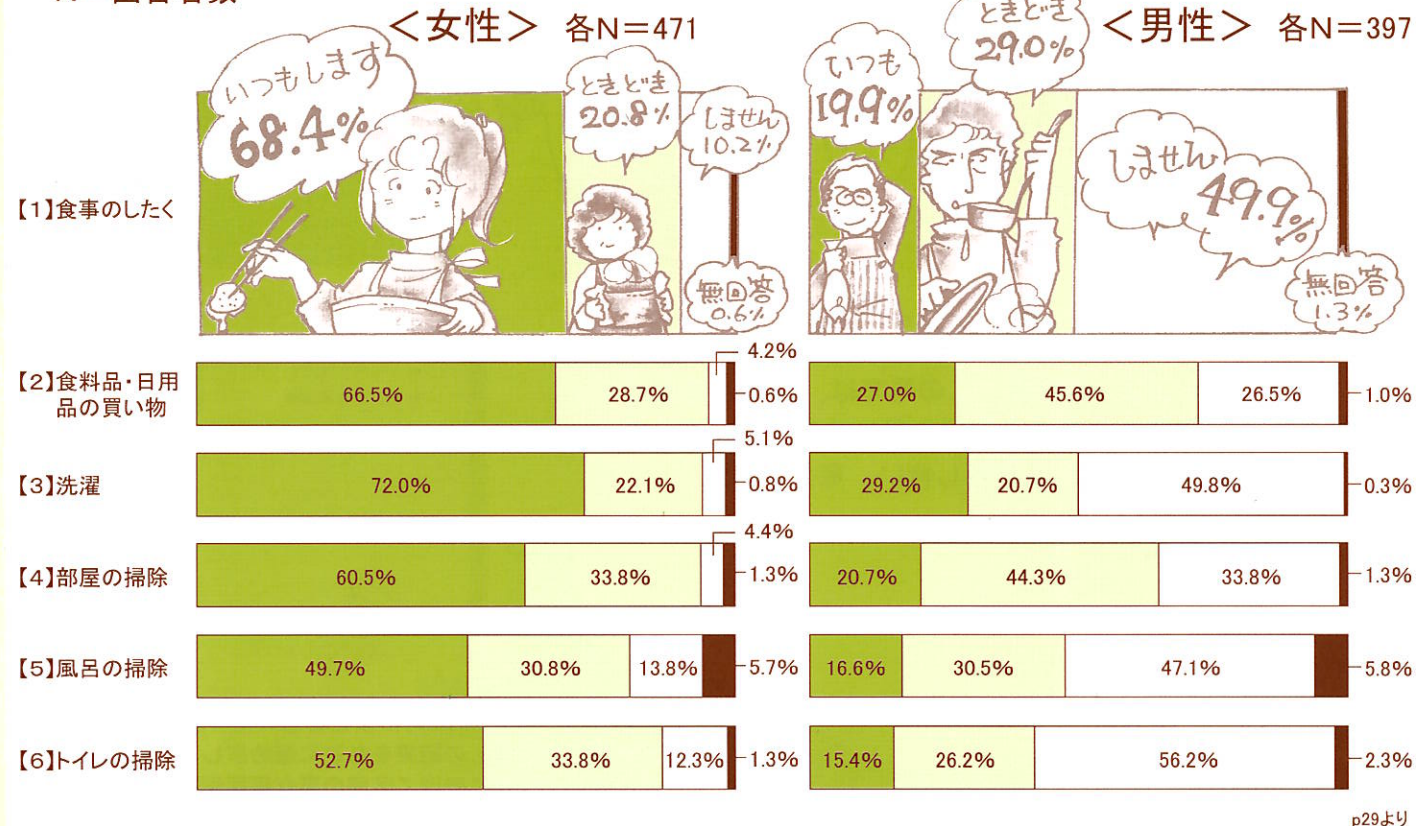
D そして「女の子の経済的自立」についても、女性では96%、男性でも91%の人がそう思っています。【グラフ8】

B でも現実では女性は子どもが生まれると仕事をやめるでしょう。

E そうですね。制度が整っていないからかな。それと育児休暇（5ページ用語解説参照）が取りにくいとか。

A 下の表の、日常生活での役割分担のところを見てもわかる

N=回答者数



座談会編集委員メンバー紹介

Aさん…30代女性 Bさん…50代女性 Cさん…60代男性 Dさん…40代女性 Eさん…20代女性

けど、食事のしたくとか、食料品の買い物や洗濯、部屋の掃除はほとんど女性がしていますよね。

やはり女性にとっての負担が大きいよね。このあたりも少子化の原因のひとつかな…。

子どもには家事ができるように望んでいるんだけど…。

B そしてここ。乳幼児の世話はやっぱり男女差が大きいかも。

E 一番該当しそうな30代男性でわずか1.3%！これは低い数値ですね。

【グラフ9】

C 私の育った群馬では、父親が赤ちゃんをおぶっている姿をよく見ましたけど。

高校ぐらいのころ、自分も親戚の子をおぶったりしましたし。

A 群馬県というと、養蚕の盛んな地域でしたっけ。

C 女性が家計を支えるケースが多かったんでしょうね。

D それは地域性によるものと

しても、台東区に限らず共働きが増えてきたのは事実でしょ？

A そうそう。養蚕じゃなくて父親の協力は欠かせません！1.3%は大いに不満です!!

D もうひとつ気になるところですが、30%以上の男性が「男は仕事、女は家庭」という考えに賛成していて、女性でも25%の人が賛成していますね。

【グラフ10】

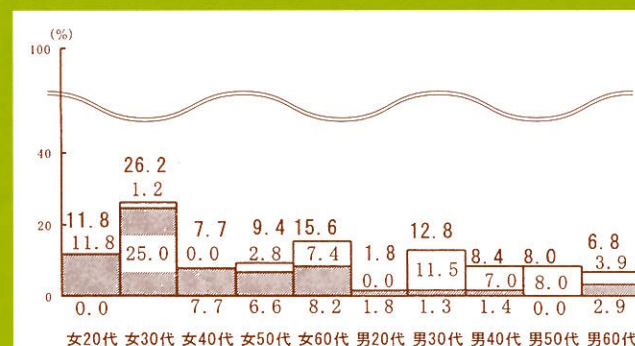
E 父親はもっと子育てに関わるほうがよい」って、女性の90%、男性でも86%がそう思っている割には低い数値ですね。

【グラフ11】

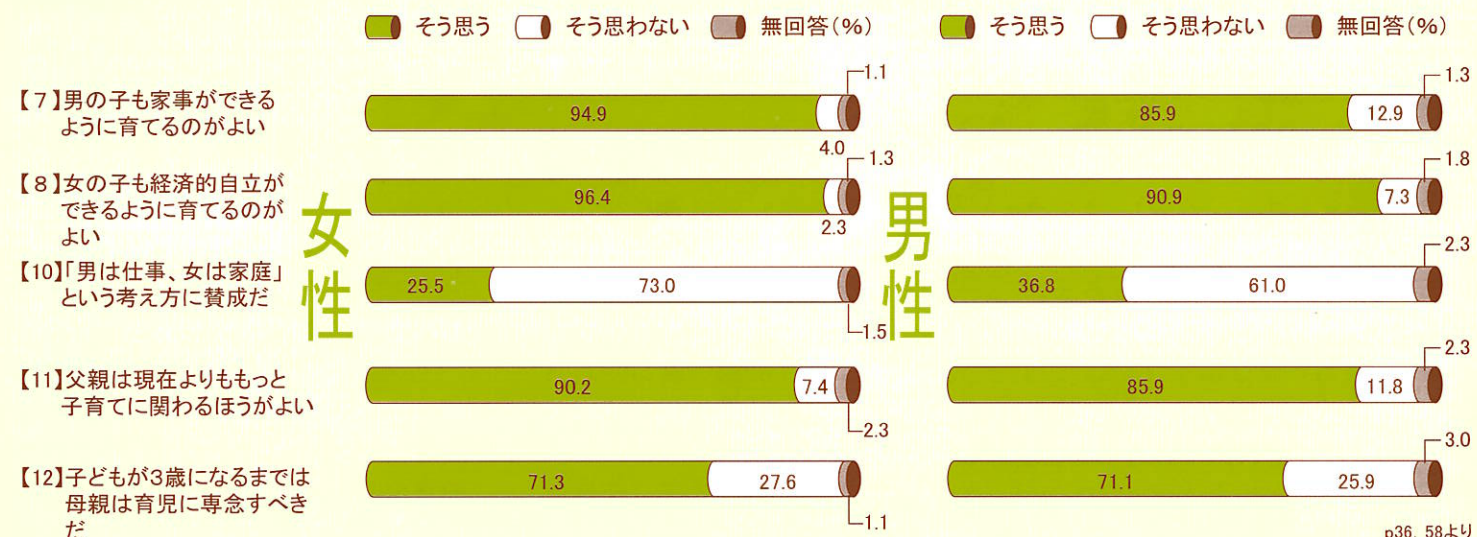
B 意識としては高いけれど、現実とはかなり違うってことでしょうか。たてまえとかメンツとかがあって、統計上の数字は良くなっちゃうのかな？

A それに「子どもが3歳になるまでは母親は育児に専念すべきだ」という考えには男女ともに7割もの人が肯定的なのはどうして？ 【グラフ12】

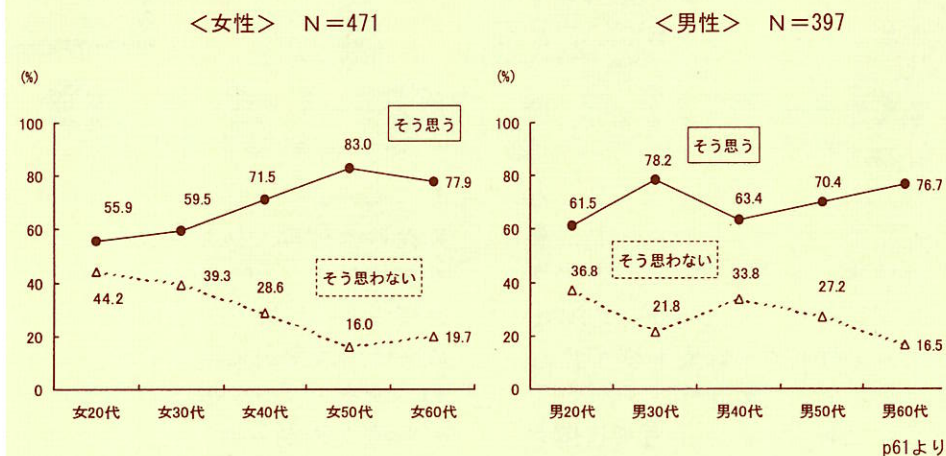
【9】乳幼児の世話「いつもしている」「時々している」の比率 <女性>N=471 <男性>N=397



<女性>各N=471 <男性>各N=397



【13】子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念すべきだ



児神話”については、厚生白書の平成10年度版でも、「合理的根拠は認められない」と明記されています。そう言われているにもかかわらず、これだけ広まっているんです。

七五三の「3」には、「3歳まで育ったね、神様に召し上げられなくてよかったね」という由来があると聞いたことはありますが、母親が育てなければという“3歳児神話”とは全く関

わりがないんです。

A 根拠はなかったんだ。

D そうなの。あとは私の個人的な考えになるんだけど、子どもが育つ中で「母」という存在は、確かに大切に重要だということに間違いはないと思うんです。…でも「3歳」「母親」「専念」という言葉に、私はやっぱり疑問が残ります。その大切な「母」を十分に支える「父」や、子どもを慈しむ目で見守る

周囲の人々が、育児にはとっても大きな存在なんだ、ということをおぼえてはいけないと思うから……。

「母親（あるいは父親、家族）が…すべきである」というような言い方で、何かをする「誰か」を一人にしぼってしまうのって、とても人を窮屈にさせるし、時には追いつめる事になってしまうんじゃないかと私は思うんだけど、そのあたりみんなはどう感じる？

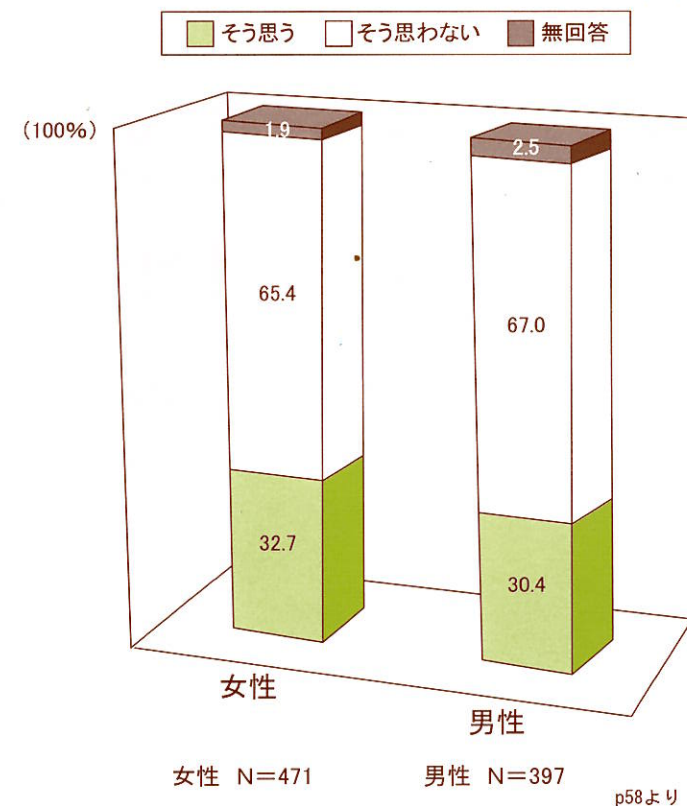
E 難しいけど……。確かに「母親は」と言われると、自分は母親じゃないから、何もしなくていいかって思っちゃうかも知れませんね。

A 言い方って、人の心に思った以上に影響しちゃうものなんですね。



B さて、男女の役割分担というものの続きになりますが、

【14】会合でのお茶や食べ物の準備、後かたづけは女性がするものだ (%)



用語解説

育児休暇 平成4年に施行された育児休業法により、一歳未満の子を養育する労働者（男女を問わず）は、その子が一歳に達するまでの間、育児休業をとることができる。

また平成14年には、子ども看護休暇の創設に対する努力義務や勤務時間の短縮・フレックスタイトム制の適用を3歳未満の子を養育する労働者にまで拡大すること等が盛り込まれた改正案が成立した。

ジェンダー 女らしさ、男らしさのように社会的・文化的に求められてつくられた男女の性別役割や行動様式、個人の心理的特徴をいう。

イラストポエム



「会合でのお茶や食べ物の準備、後かたづけは女性がするものだ」という考えが、このグラフをみるとまだ根強くあるみたい。

【グラフ14】

C 私の知っている、あるシルバーボランティアでも、同じようなことが言えますね。そこでは名簿なんかも、あたりまえのように男女別になっていたりするんですが。

D 本当ですか？

C シルバーという世代ならではのことも知れませんが、お茶のしたくに関しては女性側がゆずりませんね。逆に、班長とかリーダーということになると、慣例で必ず男性がやっています。若干不満の声もあるようですけど…。

B それはどちら側からの不満ですか？

C 両方です。なぜ女性だけ早く来てお茶のしたくを……、というのと、班長のような責任ある立場を女性はいつも避け

て……。

A ずるいとか？（笑）

C まあそんな感じです。

A でも、男性がお茶を入れると、すごく感謝されますよ。あ、これは私の行っている英会話教室でのことですけど。

D でも同じことをしてるのに、女性はやってあたりまえって思われるのは、ちょっとつらくないですか？

A ……そういえばそうですね。

C そういう役割分担の固定的な捉え方も、ジェンダー（用語解説参照）のひとつ、ということになるのかもしれないね。

E 何かを男女で分けるとか…、そういったジェンダーという考え方があるということを、私は編集委員として参加してたまま気づきましたけど、知らなければ別に何の疑問もなく過ごしていたと思います。

A 私もです。それだけ世の中に浸透してるってことですよね。

E 「ジェンダーって、生まれ

た後で刷り込まれたものなんだよ」ということを言われて初めて思いました。私も確かにジェンダーという型の中で生きてきたのかなって…。

だから、これからどうすればいいかっていうと、自分でもまだわかってないんですけど。

B でも、ひとつひとつ見直して気づいていって、…まずはそこからですよ。

A 確かににはじまりは意識調査結果の話でしたけど、考えてみると疑問が生まれる場所って、結局は私たちのすごく身近な所じゃなかったですか？

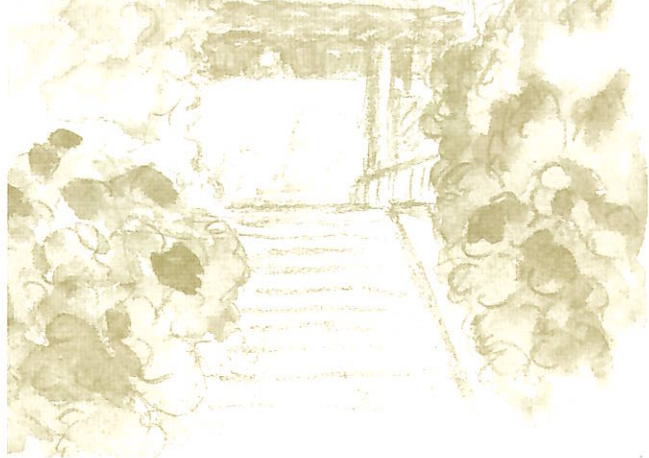
B そういうことなんですよ、たぶん。「そういう考え方があったんだ」とか、「ひとつひとつ考えると、別に男女を分ける必要はなかったんだ」ということに、こうして話し合った中であらためて気づくことになったわけですから。

縁切寺は世界に二カ所？

江戸時代、女性の側から離婚の申し立てをすることはできなかった。男子禁制の尼寺に駆け込むことが唯一の方法だった。縁切寺は離婚を許可する特権を持った寺のことで、駆込寺とか駆入寺といわれ、相模国（神奈川県）鎌倉の東慶寺と上野国勢多郡新田庄徳川郷（群馬県新田郡尾島町）の徳川満徳寺の二カ寺が幕府公認となっていました。両寺とも鎌倉時代に開山され、代々名門出の尼僧が住職を勤めています。江戸の中頃には寺法の制度も整い縁切寺としての機能を持つようになります。

縁切寺による離婚は、一定の期間在寺して強制的に離縁状を出させる「寺法離縁」と寺が説得・仲介して両者の協議による「内済離縁」があります。川柳に「鎌倉の松に三年身をかくし」とありますが、実際の例では約2年（24ヶ月）在寺した記録が残されています。

徳川幕府崩壊後、東慶寺は縁切寺としての存続を願い出しましたが却下され、男僧になり現在に至っています。



幕府の庇護を受けていた満徳寺は1872（明治5）年に廃寺になりました。尾島町は寺の跡地に資料館を建て、本堂、玄関、門などを復元し、「縁切寺満徳寺遺跡公園」として一般に公開しています。

縁切寺は江戸時代の女性にとって、ただ一つのアジール（避難所）でした。それにしても全国に二カ所しかなく、交通の不便な時代です。誰でも利用できたわけではありせん。経費もかなり地理的条件に合った者しか利用できなかったことでしょう。

編集委員の任期を終えて

心掛けたことは①男性にも読まれる②ジェンダーのわかりやすい表現とPRです。

ジェンダーは自身の理解が不完全で勉強継続中。委員と担当職員はよき方でさわやかな気分で仕事ができ感謝いっぱいです。



最近、いろいろな場所で女性の活躍が目立ちます。当編集委員も殆どが女性です。編集を通して感じたことは、子どもや女性・男性、それぞれの目線で、また世代や人種などを越えたグローバルな視点で考えていくことが大切だと思いました。

平成14年度の講座は、年間テーマである『ジェンダーへの気づき』に基づいて、

- ・「女性への暴力」（於：はばたき21）
- ・「自己主張（アサーティブネス）トレーニング」（於：小島社会教育館）
- ・「ジェンダーってなに？～自分らしく楽しく生きる～」（於：千束社会教育館）
- ・「今、私のいるところ」（於：根岸社会教育館）

の4講座が企画され、開かれました。

日常の中の「変だな？」「何で私だけ？」という女性の生き方や問題、疑問に対して、指標となりえる講座や企画だったと思います。

参加して良かった、楽しかった、初めて知った、という声も聞かれ、企画委員それぞれが、自分が手がけた講座が終わるたびに大きな達成感と共に、もっとたくさんの人へ、多くの機会を、と次年度への期待が募ります。

15年度の企画委員には、新たな方々や、男性の応募も増え、まさに新風がうかがえます。

14年度は、チャンスがなかったな、と言う方はぜひ、15年度のセミナー企画に注目して参加してみてください。きっと心に響く機会が得られると思いますよ。

セミナー企画委員より

LIBRARY

—図書情報—

情報相談+コーディネーターの仕事のこと

プラザに足を運んで頂いているみなさんに、プラザのことや、プラザにある情報や本のことをお伝えし、情報と人、人と人を結び仕事が私の仕事です。

ここで、どんなことができるの？

こんなことがしたいけれど、どうすればできるの

こんなことをしている人やグループはありませんか

プラザのこと、プラザにある情報のこと、プラザでやりたいこと＜なんでも相談＞してください！

水曜日・土曜日の午後1時～5時

みなさんとすてきな本や情報や人との出会いをつくる仕事をするを、プラザ受付にて心からお待ちしています。

追伸：「本が好き！」という方、是非声をかけてください。この小さな図書室からいっしょに情報発信をしてみませんか？

こんな本が読みたい

こんなことを知りたい！！
どうやったら調べられるの？

（はばたき21コーディネーター瀬山紀子）



『岩波 女性学事典』
井上輝子、上野千鶴子、江原由美子、大沢真理、加納実紀代編集
岩波書店 2002

日本ではじめての女性学・フェミニズムに関する事典です。

項目総数は、850件。『ジェンダー』『アサーティブ・トレーニング』『女性史』『子育てネットワーク』：等々、項目を読んでいるだけで、女性学が扱う領域の広さがわかります。

『ジェンダー』や『セクシュアリティ』といったおきな用語についての解説は、長い読み物になっています。巻末には、女性学・フェミニズムに関する情報収集に有益なサイト（インターネット上のホームページ）も収録されています。

女性学やフェミニズムについて知りたいという方は、この事典を入り口にしてみてはいかがですか。表紙の写真は、石内都さん（写真家）の手によるものです。

「からだはすてき」と題された4部作。大人になりかけの十代の人々にむけて書かれた本。

第一部が『太るのがこわい』。続いて、『異性のからだがこわい』。自分のからだに『セックスがこわい』、四冊目に『大人になるのがこわい』。題名を見るとわかるように、このシリーズは、世の中に存在するいろいろな境界線上で、次の一歩をどっちの方向へ踏み出したらいのか、少しこわがりながら立っている人たちに「世の中には、いろいろな人が、暮らしているよ」「こんな風に考えてみたらどう？』という様々なメッセージを投げかけてくれる。

本のなかにちりばめられた女性アーティストたちの作品にもご注目ください。

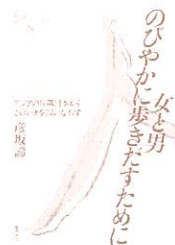


『からだはステキ』（1～4）小野のん子著・長谷川知子画
リブリオ出版 2002

「女と男」とは現実にはまだ「のびやかに歩き」だしていかない、という認識からスタートしたという著者、彦坂諦（ひこさか・たい）さんは、1933年生まれで、1949年に大連から『引揚者』として帰国し、現在は作家・編集者・大学教員と様々な肩書きを持つ男性です。

この本は、著者が「女と男」が「のびやかに歩きます」ことを妨げているものはなにか、ということについていっしょに真摯に考えていきましようよ、という呼びかけなのだという。

「男のセクシュアリティ」を考えるとところから戦争や軍隊の問題に迫り、自分で考え・判断し、実行し、その責任を引きうける、へひとりへひとりの行為の大切さが示されている。



『女と男のびやかに歩きますのために』彦坂諦
梨の木舎2002

相談カウンセラーより

平成11年、男女共同参画社会基本法が制定され、各地方自治体でも、男女共同参画条例が作られています。社会は刻々と変化しています。その一方で、家庭内での性別による役割意識はなかなか変わっていないのが現状です。

あなた自身は？家事、育児、介護、働き方、など、私たちは知らず知らずのうちに「女性だから」「男性だから」という固定した役割にとらわれて日常生活を過ごしていることが多いのではないのでしょうか？家庭の中では、母・妻として、家事をテキパキこなし、料理上手（お袋の味が健在）であることを求められるのも「女性役割」からです。夫・父親としては、力仕事、大工仕事、電気系統の修理や配線、経済力を求められるのは「男性役割」からです。このような役割意識を誰もが持っています。一日中家の中で、育児や介護に追われている女性が、帰宅した夫に一日の出来事を話す場面でこんな言葉が返っ

てきたりしませんか？「君はいつも愚痴ばかり、子どもに對してもっと上手に接すればいいのに：」「舅・姑ともっとうまくやってくれよ」など。妻側の聞いて欲しかったことは、家庭を維持して行くことの大変さや自分の辛さです。夫にも一緒に考え、担ってほしいというメッセージなのではないでしょうか。そして、夫からの「ありがとう」の一言だったはずで「仕事があるからまたにしてくれ」「君に任せているから」と言われてしまうと、役割として割り切るしかないのだとあきらめてしまうことが多くなっています。一緒に生活をする一番身近な人に分かってもらえないというのは本当は悲しいことです。

はばたき21相談室

★ 心と生き方なんでも相談 ★
◆予約制◆電話でも面接でも◆無料◆一回50分
相談日 火 10:00～16:00 水 17:00～21:00
木 17:00～21:00 土 10:00～16:00
★ 女性弁護士による法律相談 ★
女性弁護士による結婚や離婚、親子、子供などの人権に関する問題専門の法律相談です。◆無料◆一回50分
相談日 毎月 第2水曜日 13:00～16:00
第4火曜日 16:00～19:00
予約専用電話
03-5246-5819

まった自分自身を客観的に見ることで、これからの道筋がみえてくるかもしれません。相談室のカウンセラーはそのお手伝いをいたします。こんな些細なこと、人に話すほどのことではないからと、一人で抱え込まず、話してみませんか。相談室では笑顔や張りのある生活をあなたに取り戻してほしいと願っています。



はばたき21 男女平等推進プラザ

♪所在地：〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16
台東区生涯学習センター4階
♪交通機関：地下鉄日比谷線「入谷」駅から徒歩8分
都バス足立梅田町～浅草寿町、亀有駅～上野公園
上記2ルートの「入谷2丁目」下車徒歩1分
♪開館時間：午前9時～午後10時
♪休館日：月曜日（祝日にあたる場合は翌日）、年末年始
♪図書貸出：午前9時～午後8時（日曜・祝日は5時まで）
♪TEL：03(5246)5816 ♪FAX：03(5246)5814
♪E-mail：habataki21@taitocity.net
♪URL：http://www.taitocity.net/habataki21

編集委員：安西・小林・佐々木・須賀
発行：台東区教育委員会 生涯学習課 男女平等推進プラザ
発行日：2003年3月

「はばたき21通信」についてのご意見ご感想を、FAX、はがき、E-mail、はばたき21にある意見箱等までお寄せください。お待ちしております。
はばたき21通信は郵便局、NTT、駅、区役所、出張所、図書館、区内公共施設、都内女性センターなどで配布しております。